

令和2年夏（7月1日～10月28日）に関東甲信地方において先行的に実施



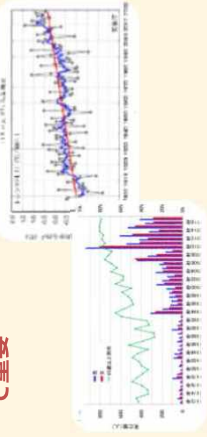
環境省 × 気象庁

熱中症警戒アラート（試行）

環境省・気象庁が新たに提供する、暑さへの「気づき」を呼びかけるための情報。熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される際に発表し、国民の熱中症予防行動を効果的に促す。

1. 背景

- 熱中症による死亡者数・救急搬送者数は増加傾向にあり、気候変動等の影響を考慮すると熱中症対策は極めて重要



2. 発表方法

- 高温注意情報を、熱中症の発生との相関が高い暑さ指数（WBGT）を用いた新たな情報に置き換える

暑さ指数（WBGT）とは、人間の熱バランに影響の大きい
気温 湿度 輻射熱
1 : 7 : 2

※各地域の暑さ指数は環境省の熱中症予防情報サイト参照

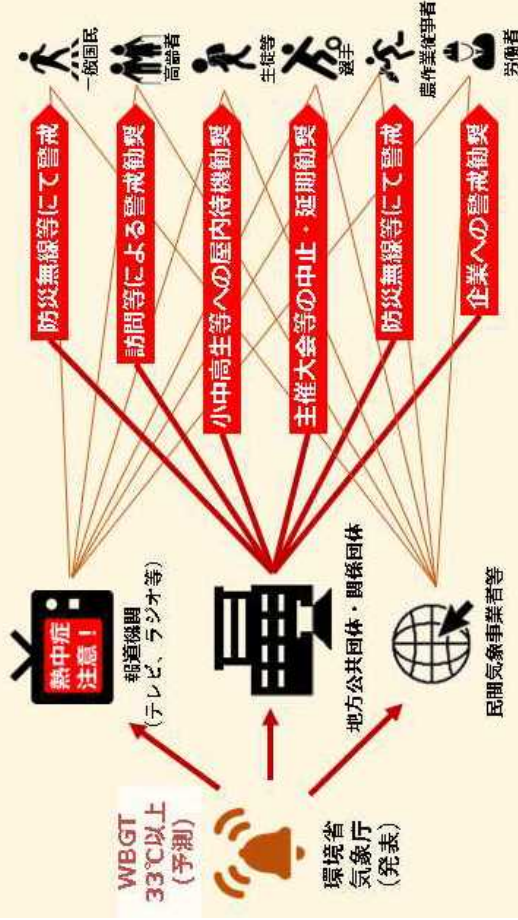
3. 発表の基準

- 都県内のどこかの地点で暑さ指数（WBGT）が33℃以上になると予想した場合に発表

暑さ指数 (WBGT)	発表の基準	熱中症予防情報提供
33℃以上	都県内のどこかの地点で暑さ指数 (WBGT) が33℃以上になると予想した場合に発表	都県単位で発表
28～31℃	都県内のどこかの地点で暑さ指数 (WBGT) が28～31℃になると予想した場合に発表	都県内の観測地点毎の予測される暑さ指数 (WBGT) も情報提供
25～28℃	都県内のどこかの地点で暑さ指数 (WBGT) が25～28℃になると予想した場合に発表	
21～25℃	都県内のどこかの地点で暑さ指数 (WBGT) が21～25℃になると予想した場合に発表	

注1) 日本気象学会指針より引用
 注2) 日本スポーツ協会指針より引用

5. 情報の伝達方法（イメージ）



6. 発表時の熱中症予防行動例

- 熱中症の危険性が極めて高くなると予想される日の前日または当日に発表されるため、日頃から実施している熱中症予防対策を普段以上に徹底することが重要。
 - ▶ 普段以上に屋内の気温・湿度、あるいは暑さ指数（WBGT）を確認し、エアコン等を適切に使用する。
 - ▶ 不要・不急の外出を避け、涼しい屋内で過ごすようにする。
 - ▶ 高齢者、障害者、子供等に対しては周囲の方々から特に声をかける。
 - ▶ 空調機器が設置されていない屋内及び屋外での運動や活動等の中止・延期等を検討する

7. 令和2年度夏の先行的実施と検証について

- 令和2年度夏（7月1日～10月28日）に、関東甲信地方（東京都、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県、長野県）において先行的に実施
 - ▶ 先行的実施の際は、関東甲信地方は現在の高温注意情報の発表基準を暑さ指数に換え、熱中症警戒アラート（試行）として発表
 - ▶ 関東甲信地方以外は例年通り気温を基準とした高温注意情報を発表
- 先行的実施を踏まえ、今秋以降に本格実施に向けて検証し、課題を改善
- 令和3年度から全国で本格実施予定